

ニセコ、スキーエリアから 通年リゾートへ



羊蹄山とサクランボの木（春）

ニセコとは

ニセコは北海道の西部 札幌から約100kmほど西に位置しており、「蝦夷富士」と呼ばれる羊蹄山とニセコアンヌプリ、昆布岳の山々に三方を囲まれ、そのほぼ中央を北海道で6番目の

流路延長を持つ尻別川が、真狩川や昆布川の支流を集め、東西に流れています。また、支笏洞爺国立公園とニセコ積丹小樽海岸国立公園がこのエリアの多くを占めており、貴重な自然に恵まれた土地です。

ニセコ山系は年間約500万人の観光客が訪れますが、その特徴は1月と8月にピークをもち二峰型であるということです。スキーシーズンの冬と、さまざまなアウトドアを楽しむことができる夏に、ニセコの魅力を感じている人が多いと考えられます。観光客の内訳を見ると、日帰り客が7割を占めており、これは札幌から車で2時間という地理的なものが要因ですが、以前は3割ほどであった道外客も最近では道内客とほぼ同じくらいに増えていきます。

冬の観光地として

スキーのメッカとして名高いニセコはその歴史も非常に古く、大正12年ごろに現在のひらふスキー場が開かれ、昭和36年にはリフトの運行を開始。以来、昭和41年にセコ国際モイワスキー場、昭和47年にはセコアンヌプリ国際スキー場、そして昭和57年にはセコ東山スキー場がオープンし、現在のスキー場を形成しています。

スキー場の開発が進むにつれ、ニセコを訪れる観光客も増加し、これに伴い個性的な料理や宿泊形態を提供するペンションが昭和50年代後半から次第に増え、いわゆるペンション村が形成されていきました。アンヌプリ地区のペンションオーナーたちが集まり、ペンション村を「ポテト共和国」と称して昭和59年に独立宣言し、当時全国にその存在を発信し大きな反響を呼びました。

ニセコのさまざまな自然の顔

四季折々に美しい風景に飾られるのもニセコの特徴です。

大地を閉ざしていた雪が消え始める3月の終わりごろから春の兆しを感じられ、草木がいつせいに芽を吹き出す5月中旬からニセコの本格的な春となります。フキやヤチブキ、クレソン、タラの芽等さまざまな山菜を採りに近郊から来られる方の車で賑わいます。6月下旬の初夏にはニセコ連峰や羊蹄山を目指す登山者の数も増えます。そして馬鈴薯の花が一斉に咲く7月中旬から本格的な夏が始まり、その収穫が始まる9月に入ると朝晩の冷気が身にしみる日も増え、中旬にもなると羊蹄山の木々が紅葉し始めます。そして、回りの木々の葉も日毎に赤や黄色に染まり、ニセコ一帯は錦絵のような美しさに包まれます。

ニセコ連峰の麓に湯煙を上げる温泉が多いのも特徴の一つです。五色温泉郷、昆布温泉郷、東山温泉郷、アンヌプリ温泉郷、ひらふ温泉郷、等々地元の人たちが銭湯感覚で通う素朴な温泉、さらに秘湯と呼ぶにふさわしい風情たつぷりの温泉まで、実にさまざまです。

登山やトレッキング、沼巡りなどで一汗かいた後に日帰り入浴でのんびりと温泉につかる、そんな楽しみ方を満喫している人がとても多く見受けられます。

夏の体験型観光地として

近年では、大人が10人近くも乗れる大型ゴムボートで、豪快に川を下るラフティングの人氣が急激に高まりました。雪解け水が豊富に注ぐ春から、美しい紅葉が眺められる秋まで行われて



ジャガイモ収穫風景と羊蹄山



人気のカヌー(ニセコアウトドアセンター提供)



ニセコアンヌプリ山頂での休息の一時

おり、次々に押し寄せる波を、ゴムボートに乗った全員が心を合わせて乗り切っていくこのスポーツは、体験者に特別な感動を与えてくれます。

すでに十数年前からブームとなっているカヌーは、すでに定着したニセコエリアのアウトドアスポーツの一つです。カヌーの面白さは、視線の高さが川の水面に近くなるため、自然との一体感がより強く味わえることです。全国一級河川清流日本の尻別川でのカヌーは、まさに絶好のロケーションと言えます。

また、ヤマベ、イワナ、アユなどが生息する尻別川を中心に、ニセコエリアを流れる川は、フィッシングを楽しむ最適な場所を提供しており、夏休みなどを利用して全国から多くのフィッシャーがニセコを訪れています。

人馬が一体となり、ニセコの自然の中を巡るホーストレッキングも注目されているアウトドアスポーツの一つで、今後このホーストレッキングの人気はさらに高まると思われる。

雄大な自然美を誇るニセコエリアを空から眺めようという目的で登場したのが、熱気球の係留フライトです。地上を離れる浮遊感や、上昇するときのスリル感とは体験できない面白さがあり、青空に浮かんだ熱気球から見下ろすニセコエリアの大パノラマはまさに絶景です。

とれたての牛乳を原料にしたアイスクリーム作りをはじめ、ニセコ産のジャガイモやカボチャを使用したイモもち作り、ニセコ産の果実をたっぷり使用して作るジャム作り、また、本場で修行したシェフが伝授する添加物をいっさい使わないソーセージ作りやガラス工芸のハンドメイド体験、芋掘り・乳搾りなど農業・酪農体験も毎年人気を呼んでいます。

通年リゾートへ

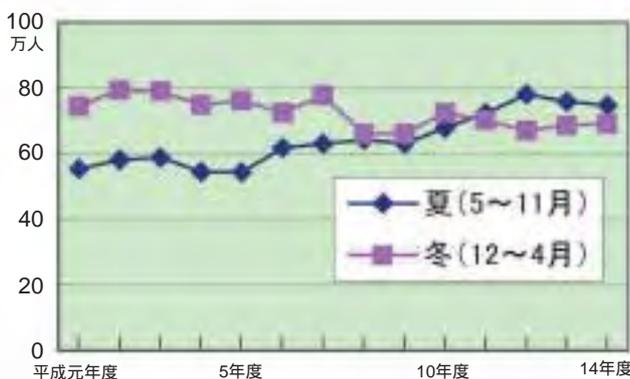
今までは冬のイメージが非常に強かったニセコですが、春から秋にかけて多くの来訪者でにぎわうようになり、平成11年には冬の観光客の入り込みを逆転しました。現在では冬のスキーはもちろんです。春から秋にかけてのいろいろな楽しみが味わえる人気エリアとして、北海道内そして全国からも観光客を集めるようになりました。

中でも平成9年に出来たニセコの玄関口とも言える「道の駅ニセコエコープラザ」は、ロコミで人が人を呼び、近年では年間100万人を超す来訪者で、大変なにぎわいを見せています。ニセコの農家6軒で運営されている農産物の直売所では、各々の農家の畑で採れた農作物が所狭しと並べられ、いまでは近隣の安心・安全の食料供給基地となっています。

また、平成14年に完成した通称「綺羅街道」は観光地らしく広々とした車道で、山々との景観にも配慮され電線も地中に埋めた市街地のメインストリートです。7月から8月にかけては地域の住民のボランティアによって綺羅街道沿線の花で飾る「花フェスタ」が開催され、多くの観光客の方が散策し、ニセコの夏を楽しんでいます。

今後、ますます通年型のリゾート地として多くの方をお迎えするにあたり、地域全体としての環境整備や情報提供などへの取り組みが急務となっています。その一方で、私たち自身がこのニセコの豊かな自然との継続的な「共生と共存」に取り組むことが、今後さらに重要となってくることでしょう。

(株)ニセコリゾート観光協会
営業部長 木下裕三



夏・冬の入込み数の推移



羊蹄山とサクランボの木(冬)